



5 回目の皆既日食をメキシコで

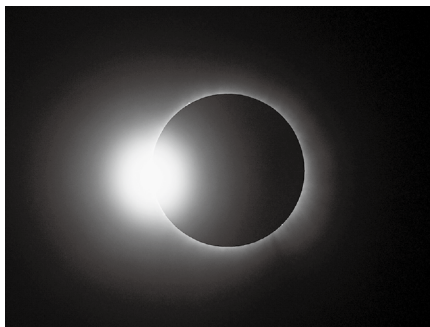
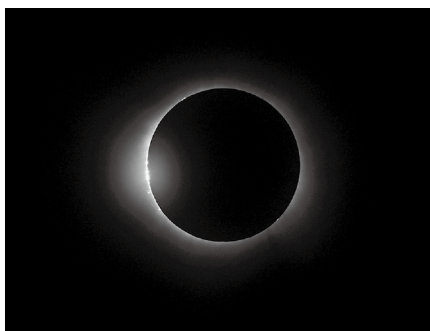
皆さんが人生で1回は見てみたいものは何ですか？ 私は皆既日食でした。2009年7月、中国で念願叶ったのですが、この奇跡的な天文現象に魅了され、“1回でなく、何回も見たい”と思うようになりました。それ以来、オーストラリア、インドネシア、アメリカと続き、今回、人生で5回目の皆既日食を見るためにメキシコに出かけました。

2024年4月8日の皆既日食はメキシコの太平洋側から米国北東部まで、皆既帯がアメリカ大陸を斜めに横断する一大イベントでした。私が参加したのはメキシコ北中部の高原地帯にあるトレオンという町で観察するツアーで、観察場所はツアー会社がわれわれだけのために借りたフットボール競技場でした。メキシコは乾季から雨季へ切り替わる時期で、少し雲が多い状況でしたが、皆既のときには雲が薄くなり、まずまずの条件で皆既日食を見ることができました。

写真は、私が撮影した黒い太陽です。皆既中はコロナや赤く染まったプロミネンスが肉眼で観察できます。今年は太陽活動が活発なこともあり、コロナが太陽の全周に広がり、巨大なプロミネンスが見えました。写真では真っ黒に映っていますが、青白く光るコロナに対して、空は少し紫がかった神秘的な色に染まります。今回の皆既日食では、Bailey's beadsも写真で捉えることができました。これは、皆既になる直前、月のクレーターの中から太陽の光が差し込む現象で、ビーズを繋げたように見えるのでこのような名称がついています。皆既日食の後、レストランでラーメンどんぶりサイズの巨大マルゲリータで乾杯しました。

次回の皆既日食は2026年8月、皆既帯がグリーンランド、アイスランドを通過した後、スペインを縦断して地中海で終わります。これが人生6回目となる予定です。日本国内でも、2030年6月1日には金環日食が北海道で観察できます。条件がよければ、欠けた太陽が日本海に沈む様子が観察できるはずです。2035年9月2日には皆既帯が能登半島から茨城県を通過します。その日は日曜日なので、手術室に閉じこもりがちな麻酔科医も黒い太陽を眺めてみてはどうでしょうか？

(関西医科大学附属病院 麻酔科 内田 整)

◀写真1
ダイヤモンドリング◀写真2
ダイヤモンドリングの後、
皆既になる直前に見えた
Bailey's beads◀写真3
皆既日食中のコロナ

▼写真4 巨大マルゲリータ

